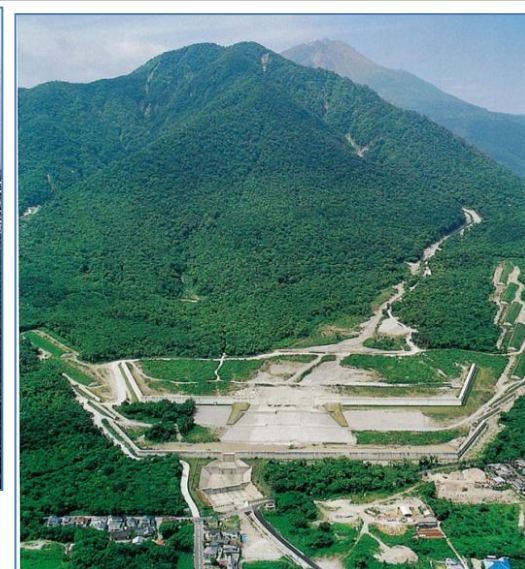




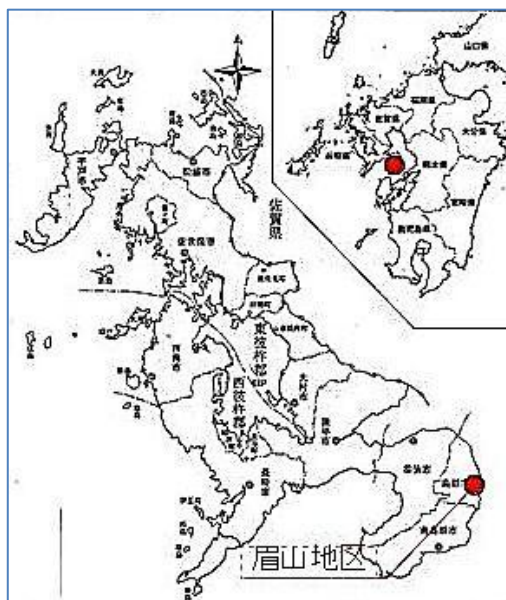
眉山全景 (平成22年撮影)



眉山6溪整備状況 (平成11年撮影)



眉山6溪整備状況 (平成11年撮影)
・1号治山ダム (堤長: 472m)
・2号治山ダム (堤長: 580m)



○所在場所

長崎県島原市

○施設・工法の概要

治山ダム工・流路工等

○解説

眉山は、寛政4年の雲仙・普賢岳の火山性地震により山体の6分の1が大崩壊を起こし、その崩壊土塊が一気に有明海へ流入し津波を引き起こし、対岸の肥後国（現在の熊本県）まで被害が及んだとされ、「島原大変・肥後迷惑」として語り継がれています。地質は角閃石デイサイト溶岩や碎屑岩で、火山作用による深層風化を受け、基岩は不規則な節理に富み、崩壊を促進しています。大正3年の大洪水を契機に眉山治山の重要性が認識され、大正5年に眉山直轄治山事業所が設置され、近代的な治山事業が開始されました。

平成2年の雲仙・普賢岳の噴火活動においても、眉山の山体変動が注目を集めるとともに、噴火以降、火山灰の堆積した各溪流は、降雨のたびに土石流を発生させることになりました。特に、眉山6溪下流においては、住家等が土砂に埋まるなどの被害をもたらしたことから、治山ダム、護岸工及び流路工を組み合わせた治山施設としては、全国有数の大規模治山工事が施工されました。こうして設置された治山施設が、今日まで災害を未然に防止し、市民等の生命・財産を守り、安全と安心を与えています。